

留学四方山話

千葉大学
関屋大雄

Hiroo Sekiya

1. まえがき

この冬は非常に厳しかったようで、氷点下 20 度を下回ることもしばしばありました。雪が降った方が気温が高いという毎日でした。そうなる部屋に閉じ込めらざるを得ません。おかげで、冬の間は研究に集中できました。長い冬が明け、こちらに来て 2 度目の春を迎え、この原稿を書いています。

今回は留学中のアメリカでの出来事と、それにまつわる身の回りの雰囲気を御紹介したいと思います。

2. 激動の一年

2008 年度はアメリカにとって激動の年になりました。ここではこの 1 年を、周りの雰囲気を交えながら振り返ってみたいと思います。

2008 年前半：大統領選と原油高

私が来てからの 1 年は、アメリカにとっても激動の 1 年だったように思います。まずは、大統領選挙がありました。私がこちらに来てそうそう、民主党選挙の演説でオバマ大統領が留学先の体育館で演説を行いました。また、共和党のマケイン候補が副大統領候補のペイリンさんを指名したのもこの体育館でした。8 月にマケイン候補が来たとき、ぜひ大統領選の雰囲気を感じたいと体育館に紛れ込もうとしましたが、あえなく失敗しました。この時期、原油高が最高潮に達し、ガソリンの価格が 1 ガロン 4 ドル (1 ガロン = 3.78 l) を超えたときには大きなニュースになりました。電車がなく、車が生活の足となっているこの地域では、学生も毎日ガソリンの価格に敏感に反応していました。

2008 年後半：金融危機

昨年 9 月の証券会社倒産を引き金とした金融危機が状況を一変させました。まずはガソリンの価格に反映され、一時 1 ガロン 2 ドル以下まで急落し、そのときは、こちらの学生も大喜びでした。アメリカでも経済状況を敏感に感じて反応するのはファーストフード店のようです。1 ドルメニューがあちこちで登場し、いろいろな割引セットも用意されました。テレビの宣伝を見ても、「安い」の基準が徐々に低くなる様子が分かりました。こちらの学生と話をしていると、経済危機は大都会の話であって、オハイオ州の片田舎には関係ないことだと思っていたようです。半年もすれば景気はすぐに戻り、自分たちは価格の下落を有難く享受できれば良い、と楽観しているようでした。

2009 年：新大統領就任

金融危機が発生した瞬間に大統領選は決着したような気がします。オバマ大統領が 1 月に就任しました。



そしてクローズアップされたのが、自動車会社の支援問題です。自動車の街デトロイト(ミシガン州)はオハイオ州と隣接しています。その影響がオハイオ州にも伝搬してきて、地元の報道番組も連日厳しい状況を伝えるようになりました。そこでようやく、こちらの学生も今回の危機の重大さを感じ始めたようです。あるところからは、逆に私にいろいろ質問するようになりました。そして日本には「失われた10年」という言葉があることを話すと、「10年」という期間の長さにとびっくりしていました。

3. 経済状況の変化が与える影響

経済状況と研究活動

経済状況の変化が研究環境にも徐々に波及してきているようで、絞るところは徹底して絞る姿勢が伝わってきます。また、外国為替を見ても、ドルは海外のほとんどの通貨に対して相対的に弱くなっていますので、国際会議参加への割高感も相当なようです。その一方、技術への投資は惜しまないという空気も感じることができます。お隣の空軍施設でも、いろいろな部門で経費削減の影響が表れていると聞きます。しかし、研究に関しては、予算、研究環境などへの影響はほとんどないとのことでした。アメリカの技術開発への姿勢を感じることができます。おかげさまで、私の研究環境も何の変化もありません。

経済状況と就職活動

日本では経済状況の変化から今年の就職活動はかなり厳しかったと聞きます。こちらでも景気によって、求人状況は変化しています。例えば、去年は多くあったインターンシップの募集がほとんどなくなってしまったそうです。今年の夏は大学で研究をしなければならない、とぼやいていた(?)学生がいました。一方、就職に関しては、多少の厳しさがあるものの、工学系の、特に大学院生に関しては、日本ほどの劇的な変化はないように感じます。第3回の留学記(No.8)にも書きましたが、学位に対しての考え方の違い、そして社会のしくみそのものが、日本の就職活動との違いとして表れているのではないかと想像します。



アパート戦争

私のお世話になっているアパートで契約更新がありました。ファーストフードなどを通じて、物価の下落を感じていましたので期待していたのですが、家賃は強気の値上げとなりました。今更転居するのも面倒なので、そのまま更新することにしました。ところで、今、大学の周りには金融危機前に着工した学生用アパートが完成目前です。金融危機前はミニバブルのようだったので、ちょっと高級感のある学生用アパートの建築ラッシュであり、この秋から複数箇所でオープンとなります。プール、フィットネス、シアタールームなどが設置され、大学とのシャトルバスも運行されるようで、見栄えも設備もなかなかのものです。私の住んでいるアパートより広く、かつ新しいのに、安価で入居者募集が行われています。経済状況の急激な変化もあり、恐らく当初の予定より価格を相当抑えて入居者を募集しているのだと思います。現在、学生新聞上で、大学の学生寮も交え、お互いが比較広告を打って、壮絶な学生の取り合いが展開されています。日本ではなかなか見ることができない光景でとても面白いです。

4. 大学教員の仕事と給料

給料トップは学長ではなく…

先日、学生新聞を見ていて面白い記事を見つけました。それは「大学はだれに幾ら払っているか」。経済状況を如実に反映している記事です。ここは州立大学ですので、給与体系も日本の国立大学に似ている感じなのかと思っていました。しかし、だいぶ雰囲気が違うようです。

給料のトップはバスケットのヘッドコーチで、その給料は1年で約38万ドルでした。学長より約5万ドル高く、ただただびっくりです。もっとも、バスケットに関するチケットと広告収入で50万ドル、更に毎年100万ドルの寄付があるそうで、このくらいの給料を払ってもタレント性のあるヘッドコーチを引き留めたい、ということのようです。こちらのカレッジスポーツに対する姿勢を感じることができる好例ではないかと思います。

教員も成果主義

アメリカでは大学の教員にも成果主義がとられており、外部資金の獲得、博士の学生を何人出したか、講義をどのくらいしたのか、などすべて点数化されており、給料はそれに従って教員ごとに異なります。話を聞き限りとてもドライなシステムであり、日本では弊害論が先にきて導入が難しいだろうな、とは思いますが、大学の教員も競争社会の一員であることを強く感じます（もちろん、システムは大学、学部によっても違うと思いますので、誤解のないようお願い致します）。

したがって、学部によっても大きく給料が異なります。工学系は医薬、経営に次ぐ水準にあるようです。これは、企業間の職種別の給料の差がそのまま反映されているようなイメージです。教授の話では、大学では医薬系とは10～20%くらいの差があると言っていました（副収入は別）。

工学系教員には二つのタイプ

大学教員の仕事は講義と研究室運営がありますが、工学系のほとんどの先生が別に会社を持っており、中にはほとんどそちらにいて、大学には講義のときにしか来ない先生もいます。外から大きな研究費を持ってくる教授は、そ



のお金で講義をほかの先生にやってもらって、実質講義ゼロという場合もあるようです。ルールでは、外の勤務は週2日までと規定されているようですが、完全に有名無実化している状況である、とこちらの学生が言っていました。

こちらの学生の言葉を借りると、私のいる学科の教授陣も、お金儲け（実用化）を第一とする教授と、学生への講義と研究を第一とする教授に大別できます。私のいる研究室の教授は後者に当たり、平日、休日を問わず毎日大学にきていますが、その隣の部屋の先生は1週間一度見るか見ないか、という感じで、とても極端です。どちらもその先生のポリシーがあつてのことで、良い悪いは言えませんが、州立大学の教員でも活動にある程度幅を持たすことができる、という点が興味深く感じました。

給料の最低額は保証されている

一方、給料の最低額は学部にかかわらず規定されています。これはAAUP (American Association of University Professors) という組織があり、そこで権利を確保しています。役職名で分けられており、准教授で6万5千ドル、教授で8万ドルとなっていました。これに、成果報酬が上乘せされていくわけです。学生新聞にはこのせいで、特に目立ったことをせず退職をじっと待っている教授がいる、と厳しい意見が書かれていました。面と向かって厳しいことを言うものです。なお、この学生新聞の編集長や、学生会の会長（全学で選挙があります）は大学から2千ドルの給料が出ているそうです。

なお、平均年収ですが、AAUPのデータによれば、Professor, Associate Professor, Assistant Professor の順に11万ドル、9万ドル、7万5千ドルだそうです。為替相場にもよりますが、日本と比較するとどうでしょうか？

5. む す び

2008年度はアメリカにとって激動の1年だったように思います。今年度もいろいろなことがありそうです。私にとって留学が2年あるというのはとても大きく、だいぶ慣れてきて、今年は1年目以上にいろいろなことができそうです。こちらの生活では、今まで知らなかった文化・世界観を感じることができるなど、研究以外にも多くのことが勉強になります。私の留学も後10か月になりましたが、すべてが貴重な経験だと信じて、いろいろ取り組んでいこうと思います。